

第5回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会

日 時：平成23年 6月 1日（水）

11：00～15：30（白糸の滝ドライブイン10時50分集合）

場 所：最上川スキー場跡地（11：00～12：00）及び戸沢村役場（301会議室 13：30～）

次 第

1 開 会

2 東北森林管理局計画部長挨拶

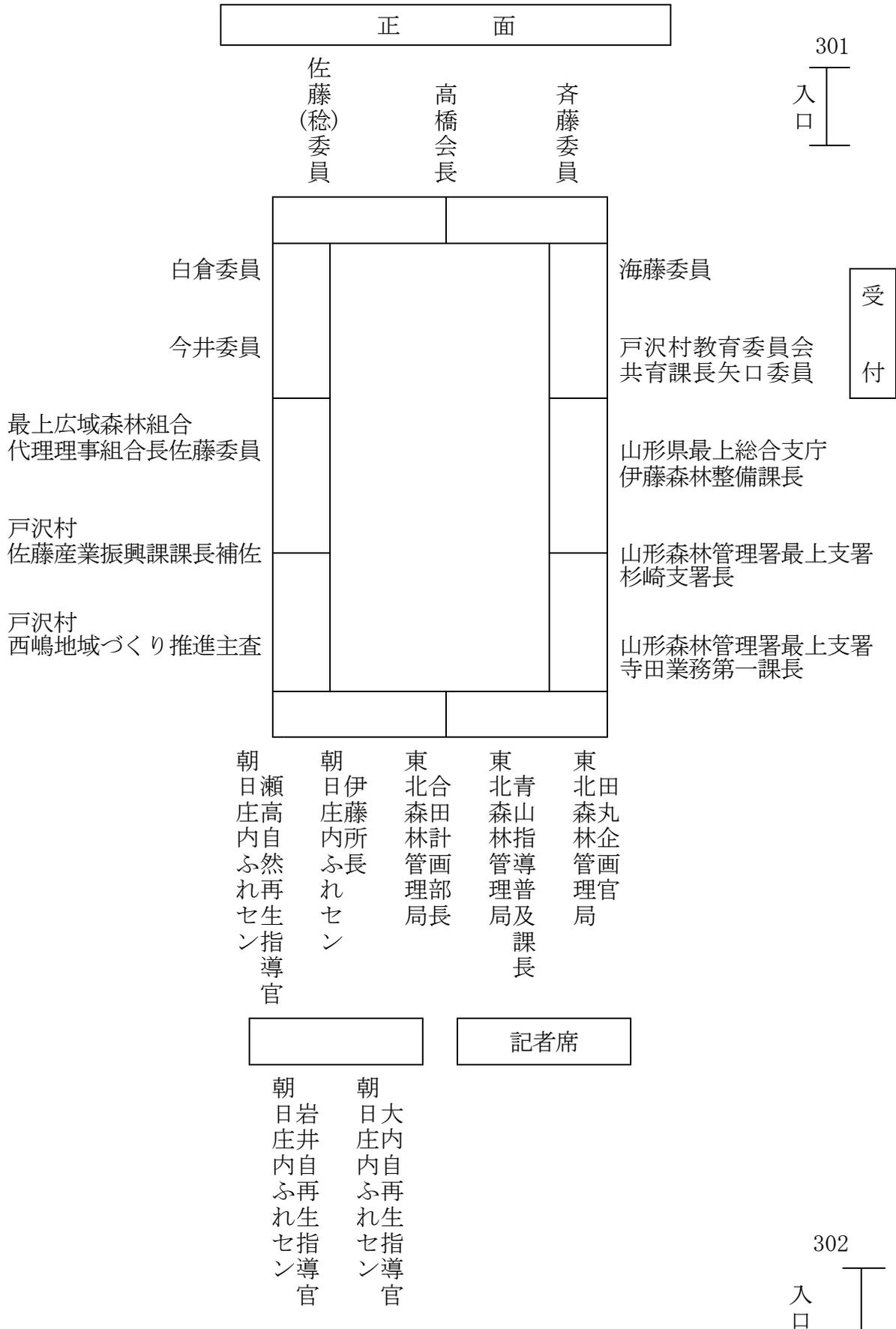
3 出席者の紹介

4 議 事

- 【1】平成22年度「土湯の森」づくり事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
 - ① 刈り払いと「幻想の森」散策
 - ② モニタリング調査（植生、動物）
 - ③ ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち
- 【2】平成23年度「土湯の森」づくり事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・資料2
- 【3】みどり環境交付金事業について・・・・・・・・・・・・・・・・資料3
- 【4】参加募集について・・・・・・・・・・・・・・・・資料4
- 【5】その他・・・・・・・・・・・・・・・・資料5

5 閉 会

第5回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会座席表



第5回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会出席者名簿
 (委員敬称略、五十音順)

所 属 等		氏 名	出欠
委 員	希少猛禽類研究者	いまい 今井 ただし 正	出 席
	山形県最上総合支庁森林整備課長	いとう 伊藤 かずお 和夫	出 席
	神室山系の自然を守る会会長	かいとう 海藤 きよし 清志	出 席
	山ノ内地区部落会長	さいとう 斎藤 すみお 寿美雄	出 席
	戸沢村産業振興課長	さいとう 齋藤 みつや 光矢	出席(AM)
	最上広域森林組合代表理事組合長	さとう 佐藤 けいいちろう 景一郎	出 席
	最上峡案内人協会会長	さとう 佐藤 みのる 稔	出 席
	最上エコポリス自然案内協会事務局長	しらくら 白倉 ゆういち 祐一	出 席
	山形大学農学部教授	たかはし 高橋 のりお 教夫	出 席
	戸沢村教育委員会共育課長	やぐち 矢口 はるお 晴夫	出席(PM)
事 務 局	戸沢村産業振興課課長補佐	さとう 佐藤 ゆうじ 雄次	出 席
	戸沢村産業振興課地域づくり推進主査	にしじま 西嶋 ひろし 洋	出 席
	東北森林管理局計画部長	ごうだ 合田 かずひろ 和弘	出 席
	指導普及課長	あおやま 青山 いちろう 一郎	出 席
	〃 企画官（自然再生）	たまる 田丸 よしつぐ 義次	出 席
	山形森林管理署最上支署長	すぎさき 杉崎 ひろし 浩史	出 席
	〃 業務第一課長	てらだ 寺田 のりもと 紀元	出 席
	朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長	いとう 伊藤 ひろみち 博通	出 席
	〃 自然再生指導官	おおうち 大内 いちろう 伊智郎	出 席
	〃 自然再生指導官	いわい 岩井 くにひこ 國彦	出 席
〃 自然再生指導官	せたか 瀬高 たかお 孝男	出 席	

【2】平成22年度「土湯の森」づくり事業報告

1 刈り払いと「幻想の森」散策

(1) 目的

スキー場跡地の森林再生ゾーンに生育する種子による更新補助及び実生稚樹の生育を促す目的として刈り払いを実施した。①参加者は、自然再生実施協議会委員の方々の所属する団体の協力を得ながら実施した。②参加者のうち、希望者は「幻想の森」で樹木や下層植生を観察した。

(2) 実施日時 平成22年7月28日(水) 9:30～12:30

(3) 参加者の募集方法

- ① 戸沢村戸沢・角川中学校2校への参加依頼(7月上旬)
- ② 自然再生実施協議会委員あて参加募集案内を送付(7月中旬)
- ③ 戸沢村、ふれあいセンターホームページで募集(7月中旬)
- ④ 新聞等報道機関へのプレスリリース(7月中旬)

(4) 参加者

参加者		人数	内 訳
各団体		20名	山ノ内地区委員(6)、神室山系の自然を守る会(4)、里の文化共育研究所(5)、最上総合支庁(2)、最上エコポリス自然案内協会(1)、最上広域森林組合(2)
務局	戸沢村役場	2名	西嶋(商工観光交流主査外)
	最上支署	1名	業務第一課長
	ふれセン	4名	所長、山口、大内、瀬高
計		27名	うち機械刈6人

(5) 事業内容

- ① 事前踏査により、昨年刈り払いしたススキやタニウツギなどの回復状況や効果について検討した結果、平成22年度は刈払区0.45ha(P5 写真1の刈払区)を作業区域として設定した。また、平成20年度の植付区0.19ha及び21年度の植付区0.21ha(P5 写真1の植付区)は別途実施した。
- ② 安全面などを考慮し機械刈(6名)は区域内下部の草の繁茂地を、それ以外の手鎌の人は刈払区上部の草の少ない箇所を実施した。
- ③ 事業実施前に取組の目的や刈り払いの作業方法などを説明し、協議会委員指導のもと9時30分～11時頃まで刈り払いを実施した(写真2～5)。
- ④ 今回は、過去の誤伐を反省して、事前に実生木の横に竹棒を立てた。
- ⑤ 刈り払い終了後、希望者を対象に「幻想の森」へ移動し、樹木や他の植物の観察を行った(写真6～7)。



写真1 刈払い区域



写真2 開会式



写真3 手鎌による刈り払い



写真4 機械による刈り払い



写真5 現段階ではスギ、アカマツが目立つ



写真6 幻想の森 神代スギ(天スギ)



写真7 ふきで作った簡易なコップ

(6) 配布資料

参加者に「土湯の森づくり」の資料を配布した（資料2）。

2 モニタリング調査

2-1 植生調査

(1) 目的

昨年に引き続き実施(P8 写真12参照)した刈払区の成果や平成20年度・平成21年度に度植付けしたブナ等の稚樹の現況及び自然推移ゾーンの稚樹の発生状況を把握し、現地の回復状況を実施計画に反映させていくことを目的としている。

(2) 実施日時 平成22年10月9日(土) 9:30~14:00

(3) 参加者の募集方法

山形大学学生、山ノ内地区区民及び市民ボランティアの方々の調査協力により実施。

(4) 参加者

参加者	人数	内 訳
山形大学	9名	委員(1)、学生(8)
山ノ内地区	3名	委員(1)、地区区民(2)
一般市民	1名	
ふれセン	4名	全員
計	17名	

(5) 事業内容

- ① 調査前に学生へ自然再生に向けた取組の経緯（スキー場の廃止、緑の回廊、自然再生実施協議会の概要等）を説明した後、調査方法（表1）の周知を行い調査を実施した。（写真8~12）
- ② 調査は、発生稚樹を把握するため、昨年設定した4調査プロット（森林再生ゾーン〔刈払区・対照区〕と自然推移ゾーン〔A・B〕）に加え、植付区のブナ等の稚樹を対象とした本数、生長量を調査した。

調査方法(表1)

箇所		内容
森林再生	植付区 (全 木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽木全てにNo.テープを付し、樹種、本数、苗高を調査した。また、植栽木の状態や被害(ウサギの食害)などを併せて調査した。 ・ 実施体制は3~4人/組
	刈払区域 (1箇所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年設定した4調査プロット(1m×10m)を調査した。 ・ 調査方法は昨年と同じくプロット内の10個のコドラート(1m×1m)毎に、それぞれ高木性の樹木の樹種、本数、苗高を調査した。 ・ 苗高は11cm以上を基本とし、コドラートNo.3とNo.8は、それ以下も調査している。 ・ 実施体制は3~4人/組
	対照区 (1箇所)	
自然推移ゾーン	(2箇所)	



写真8 調査方法の確認



写真9 植付木の調査



写真10 Aプロット内の実生木



写真11 記念撮影

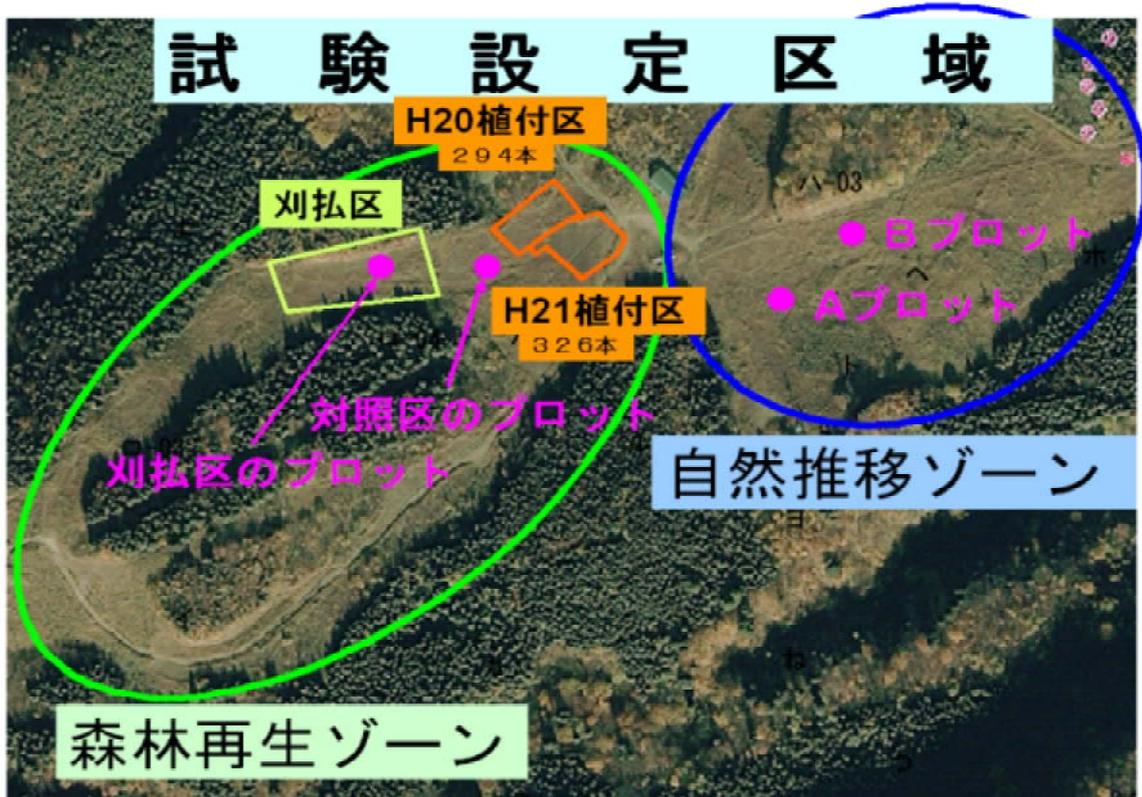


写真12 各試験区域

(6) プロットの調査結果

①森林再生ゾーン(刈払区)

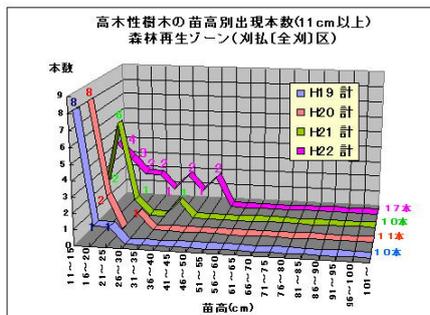


表-1

②森林再生ゾーン(対照区)

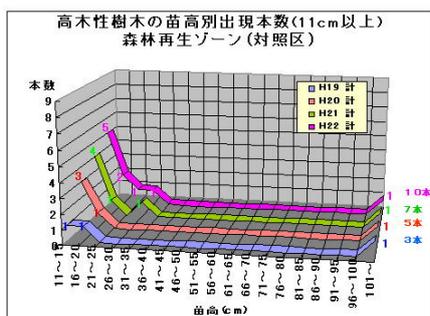


表-2

平成19年度から平成22年度にかけて全体本数は10本から17本となり、高さも高く推移しています。平成22年度では高さ30cm以上で6本の出現が確認できた。

この6本は HA 換算し6,000本となり、天然更新の目安5,000本をクリアしたことになる。但し、スギの稚樹を主体とした林分であり、刈払いは生長状態を確認しながら一定の期間必要と考える。

本数、高さも増加傾向にあり、平成22年度時点で刈払区と対照区を比較すれば、刈払区の高さは最高50cm まで伸びてきているが、対照区の高さの最高は30cm 以下に止まっています。

全体本数も対照区が10本で刈払区は17本で刈払区の方が多結果となった。

この結果からスギ主体で考えれば刈払いを実施した方が有利との結果となった。

③自然推移ゾーン(Aプロット)

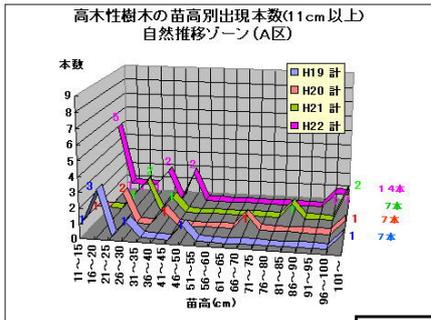


表 - 3

全体本数は平成19年度の7本から平成22年度で14本と増加しています。徐々に高さも高く推移してきています。樹種の種類も平成19年度でスギ、アカマツ、ヤナギの3種類が、平成22年度ではウラミズザクラ(H22~)、ヤマモミジ(H22~) も加わり5種類と広がりを見せている。

30cm以上は6本あり HA 換算すれば、6,000本となった。

④自然推移ゾーン(Bプロット)

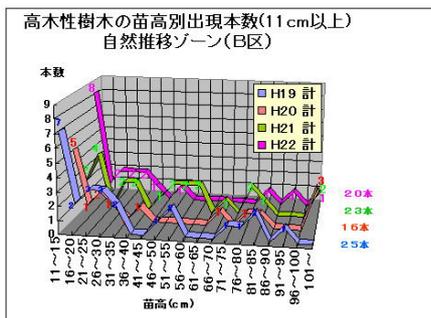


表 - 4

全体本数で平成19年度は25本で樹種の種類は7種類(スギ、ブナ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、ヤナギ、ヤマウルシ、アオハダ)です。平成22年度は20本で樹種の種類は6種類(スギ、ブナ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、ヤナギ、バッコヤナギ)。これは平成21年度に30 cm 以上の稚樹が15本あったのが平成22年度では7本となり8本減っていた。

何らかの原因で消失したことが、平成22年度で全体本数が伸びなかった原因である。(主にヤナギ)

更に、BプロットはAプロットに比べ樹種の種類、本数も多い傾向にある。Bプロットが周囲の広葉樹群落に近い条件が幸いしたと考えられる。

(7) 植付木生長量調査

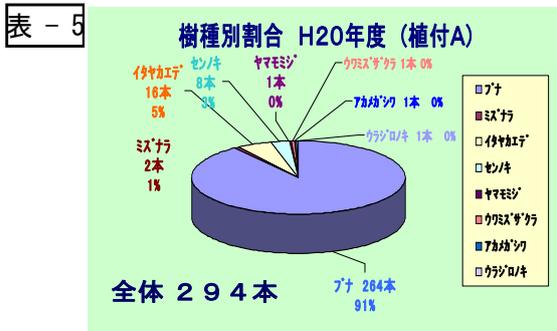


表 - 5

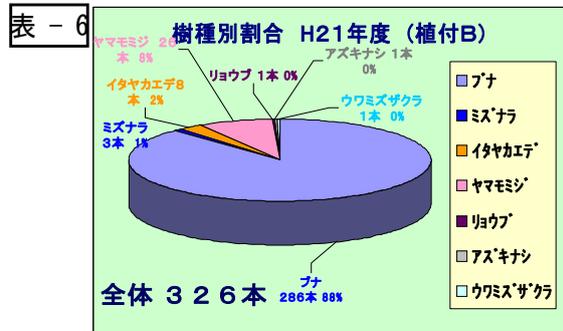


表 - 6

平成20年度の植付区は全体で294本、平成21年度の植付区は全体で326本です。共にブナ主体に植付けしている。

①苗高別本数

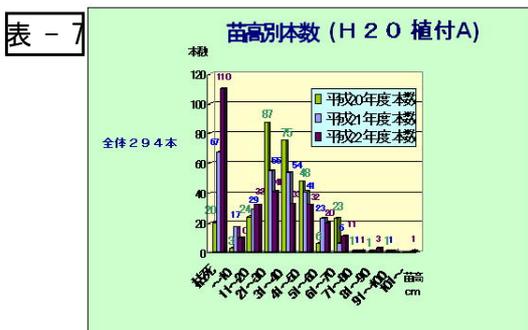


表 - 7

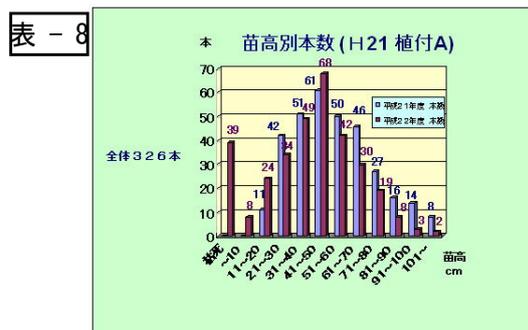


表 - 8

各苗高階級の本数を表しているが、特に枯死本数は平成20年度植付箇所においては平成20年度から平成22年度にかけて20本から110本に増え、平成21年度植付箇所では同様に0本から39本に増える結果となった。よって、ブナ等が枯死になり各階級の苗高本数は何れにおいても、平成22年度の調査の方が以前の年度より減少する結果となった。

②樹種別状態割合

表-9

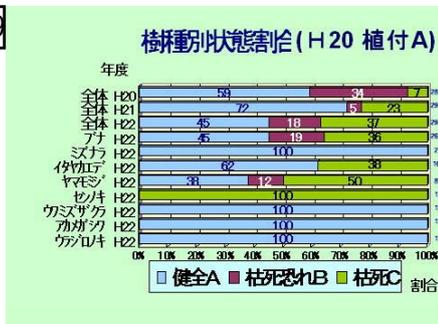
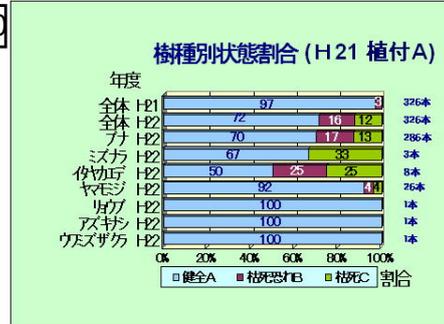


表-10



樹種毎の被害状況を平成22年度の調査で健全・枯死恐れ・枯死の三つの状態に分けて割合を出しています。樹種全体割合も平成20年度から平成22年度まで年度別に表している。

平成20年度植付区ではブナの枯死は36%、枯死恐れも19%で合わせて55%の結果となった。平成21年度植付区ではブナの枯死は17%、枯死恐れも13%で合わせて30%の結果となった。何れも高い傾向である。年度別の全体割合を見ても平成20年度から平成22年度にかけ年々、枯死が増える傾向となった。

③樹種別被害割合

表-11

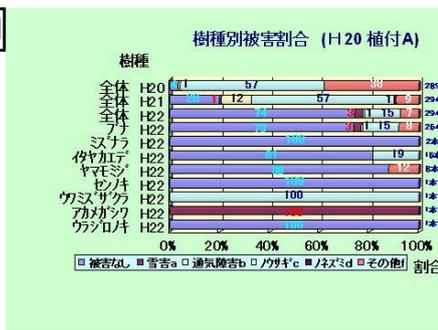
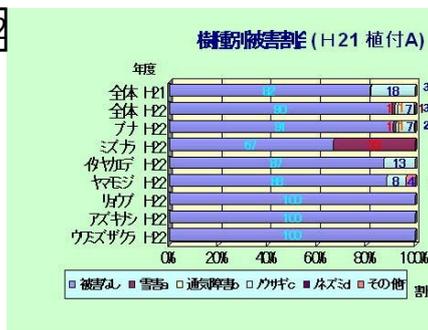


表-12



平成20年度植付区のブナの被害はノウサギ食害で15%、その他被害で8%となっている。他の樹種についてもノウサギ食害、その他の被害が高い傾向にあります。平成21年度植付区では、ノウサギ被害は然程高くない。

全体割合を年度別に見れば、平成20年度植付区の平成20年度、平成21年度の調査と平成21年度植付区の平成21年度調査においては、ノウサギ被害が高い傾向となった。

④防草シート敷設別状態割合



表-13

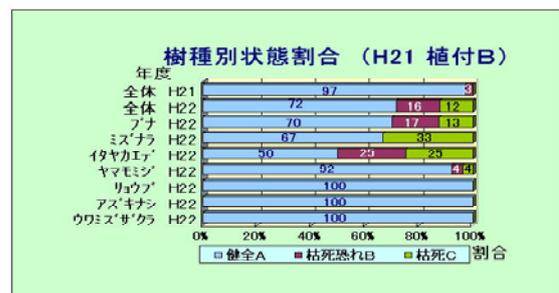


表-14

平成20年度植付区の防草シートの有無では、シート無しの方が年々枯死の割合が高くなり、平成22年度時点の割合を比較しても、防草シート無しの方が枯死の割合が高い結果となった。平成21年度植付区における平成22年度時点の調査では枯死の差はあまり見られず、枯死恐れでややシート有りの方が割合が低くなった。

⑤防草シート敷設別被害割合



表 - 15



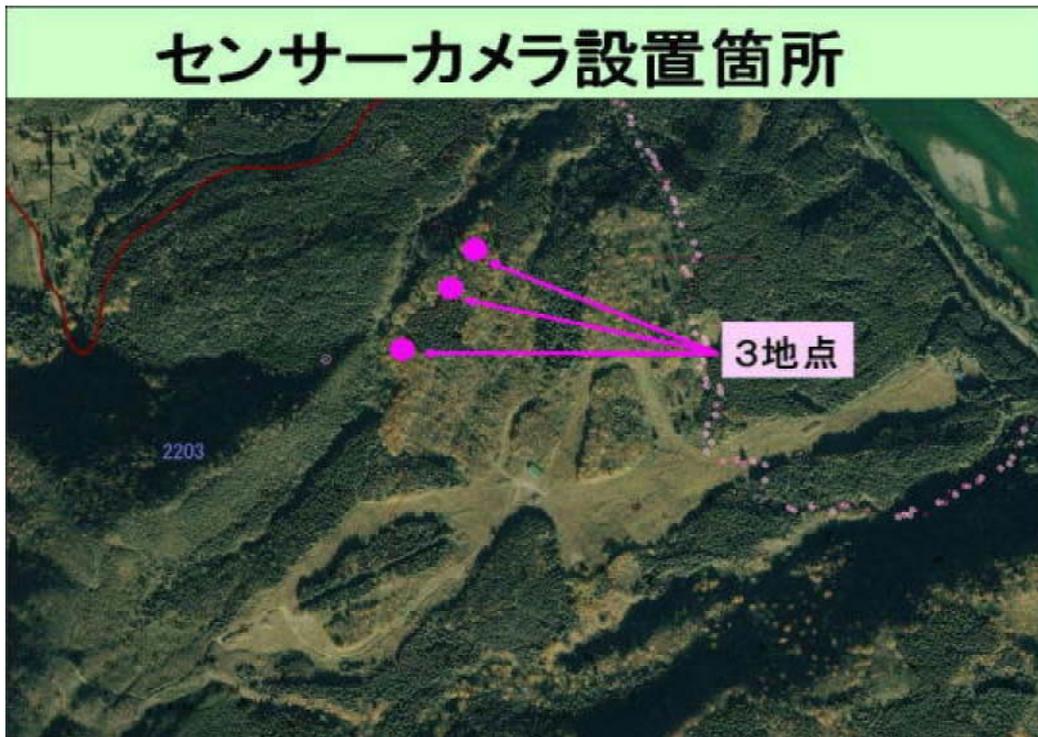
表 - 16

防草シートの有無による動物等の被害割合は、平成20年度の植付区で平成20年度・平成21年度の調査では、ノウサギ被害割合が何れも50%を超えている。平成22年度は何れの調査も前年度より少なくなった。通算してもシートの有無での優位性はあまり見られない。

平成21年度植付区においては、平成21年度・平成22年度の調査でも大きな被害は出でず、シートの有無による優位性はあまり見られない。

現段階の植付区での防草シートの有無の善し悪しは、平成20年度・平成21年度の何れの箇所も開始時は草の繁茂が少なく、植付木の目隠し効果は少ないため草の繁茂時点まではシートの有無の優位は然程ないと考える。当該地のような裸地状態に植付けする場合は、苗木の健全性を重視しシート有りから開始するのが望ましいと考える。

2 動物調査



(1) 目的

自然再生実施箇所の周辺に生息する動物の生息状況を把握する。

(2) 実施日時

平成22年7月28日(水) ～ 平成22年11月25日(木)

(3) 調査方法

スキー場跡地周辺(作業道脇)に赤外線センサーカメラ3台を設置し解析した。調査では昆虫、直射日光等による誤動作が多かったため2回の実施に留まったが、周辺の林地を主体に延べ22回実施した。誘因のため適宜サバ缶、バタピー、牛脂等を用いた。ふれあいセンター職員が単独で実施。

(4) 調査結果

全撮影枚数470枚のうち76枚(16%)に、8種の哺乳類と1種の鳥類1種の昆虫が記録された。記録数が多かったのはタヌキ41件で全体の54%でした。

出現度数は24時間で7～8時と21～22時までが高い結果となりました。

①センサーカメラによる動物等の出現率

回収	ヒト	カモシカ	タヌキ	キツネ	テン	ハクビシン	ネズミ	リス	ヤマドリ	ガ
H220728		1	5		3					2
H220915			1		1	1				
H221007										
H221029										
H220728							5	1		
H220909			6				1			1
H221007										
H221029										
H221125										
H220728				1	1					1
H220909			25					2	5	
H221007	4		1			3				
H221029			2						1	
H221125			1						1	
76	4	1	41	1	5	4	6	3	7	4
100%	5%	1%	54%	1%	7%	5%	8%	4%	10%	5%

表-17

②動物等の撮影写真

スキー場周辺に設置したセンサーカメラ(H21~H22)



写真 1 3

③時間帯による動物等の出現度数

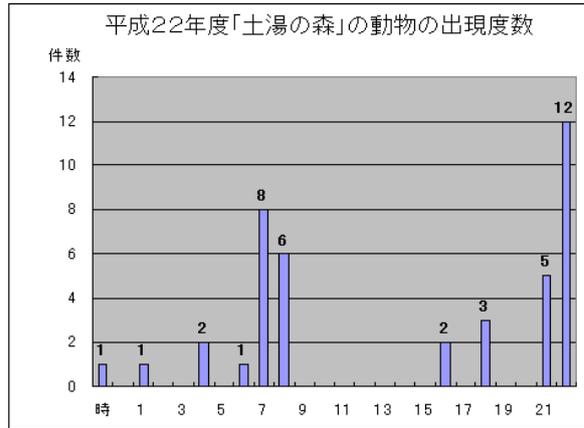


表 - 1 8

2 - 3 配布資料

参加者に鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊のパンフ及び朝日山地森林生態系保護地域のマナーガイドを配布した。

3 ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち体験

(1) 目的

スキー場跡地周辺で被害が拡大しているナラ枯れ被害木を処理しながら、カシノナガキクイムシによる被害の知識を深める。また、被害木の処理で発生した短尺材にキノコのコマを打ち、参加者の楽しめる機会を創出することを目的として予定していた。

(2) 実施日時 平成22年11月3日(水) 9:30~13:00
雨天のため延期日も中止

(3) 実行者

ふれあいセンター職員及び白倉委員の協力を得て実施。

(4) 事業内容

- ① ナラ枯れ木1本(胸高直径6.4cm、樹高1.7m)を森林組合2名で伐倒玉切りした。
- ② ほだ木にキノコ種コマ6,500個(シイタケ、ナメコ、ブナハリタケ、クリタケ、ムキタケ)のコマ打ちを実施した。
- ③ コマ打ちしたほだ木は、ナンバーテープを付している。



写真14 ナラ伐採木



写真15 種コマ



写真16 コマ打ち



写真17 ほだ木



写真18 ナラの木口



写真19 天然木に発生(ムキタケ・ナメコ)

【2】平成23年度「土湯の森」づくり事業計画

自然再生実施計画における「年次計画（表2）」及び前年度の事業実行結果等を踏まえ、以下により実施する。

1 ススキ等の刈り払い

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・森林再生ゾーン内0.85ha(刈払区 0.45ha、H20植付区 0.19ha、H21植付区 0.21ha)実施。	・森林再生ゾーン内0.85ha(刈払区 0.45ha、H20植付区 0.19ha、H21植付区 0.21ha)。 ・森林再生ゾーン内の刈払区、植付区等の試験区以外の箇所への刈払いの拡大。
時期	・7月28日(水)実施。 ・刈払区と対照区を比較して実施の効果が見られた。	・7月下旬頃実施。 ・植付区については、刈払い時期を遅らせ乾燥の防止効果を図る。
その他	・作業時は樹木が草で目隠しされないよう目印の棒を立てた。誤伐は殆ど無く効果が見られた。	・残存木の表示や作業前の説明を徹底する必要がある。

1 モニタリング調査

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案	備考
面積	・森林再生ゾーン内 刈払区プロット、対照区プロット、H20・H21の植付区(全木)を実施。 ・自然推移ゾーン内 A・Bプロットの地点を実施。	・補植の苗木を含め全年度同様の調査を実施。	P 8 の写真 1 2 参照
時期	・10月9日(土) 実施。	・10月上旬実施。	
その他	・植生調査は山形大学生及び一般参加者を募って実施。 ・センサーカメラにより哺乳類 8 種 (タヌキ・テン等)、鳥類 1 種 (ヤマドリ)、蝶を確認。	・調査の継続という面から、山形大学生に協力依頼を行い実施していきたい。 ・ふれセンにおいて、センサーカメラ及び目視による動物の種類等を取りまとめる。	

3 ブナ等山取苗の植え付け（補植）

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・無し	・多様な樹種の適正試験を0.02ha程度の面積で実施。（未だに草本等の出現が見られな裸地状態の箇所－植付区の周辺）
時期		・昨年度採取した山取苗をH20・H21植付区の補植を11月期に実施。 ・山取苗を4月上旬に採取。 ・種子採取を10月期に採取。（H24の補植用）。
植栽間隔		・2.5m×2.5m（植付区の補植は正方形植） ・1.5m×1.5m（樹種の適正試験区－正方形植）
植栽本数		・植付区の補植 150本/0.40ha（1,550本/ha） ・樹種の適正試験区 70本/0.02ha（3,500本/ha）
防草シート	・調査時では本来の目的である防草効果は見られる。防草シートの捲れが若干見られる。シートを固定していたプラ杭（生分解）の耐用年数は3年位では無いかと思われる。 ・乾燥防止効果についても優位性が見られる。	
事前準備	・山取苗を11月上旬に採取。（ブナ、カエデ、ホオノキ、アカメガシワ等）	・山取苗を4月上旬に採取。（秋補植用） ・種子採取を10月期に採取。（H24の補植用）。
その他	・平成20年度植付区の被害率（ノウサギ等の動物被害）は前年の80%から26%に減少、正常活着率は同72%から45%に減少、枯死率は同23%か37%に増加した。 ・平成21年度植付区の被害率は前年の18%から10%に減少、正常活着率は同97%から72%に減少、枯死率は同0%から12%に増加した。	・植付等の行事開催は戸沢村観光行事との折り合いが付けば合同開催も検討。

4 林道等の整備並びにナラ枯れ被害対策

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
林道・作業道	<ul style="list-style-type: none"> ・土湯林道及び作業道(林道分岐点から旧最上川スキー場までの間1.2km)の路面整備を3回実施している。(3回の実施は最上支署、無線事業者、みどり環境交付事業費でそれぞれ一回実施している) ※ 予算措置としては2回以上の事業費が必要である。 ・降雨による作業道路肩崩落箇所の復旧工事を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土湯林道本線及び作業道の路面洗掘箇所は路面整備を実施する。(年2回バックホー借り上げ予定) ・作業道刈払い(1.2km) ・横断溝設置(止水エース)
ナラ枯れ被害	<ul style="list-style-type: none"> ・車両通行に危険が予測される、ナラ枯れ被害木の除去を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通に支障を起さないよう、事前の巡視を実施する。

表2 自然再生実施年次計画（実施計画書から抜粋）

項目		年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
森林再生ゾーン	植栽	準備（苗木堀取、ポット移植等）	←————→		←————→	←————→	←-----→
		植付		←————→	←————→		←-----→
		一部植付（補植）					←-----→
		刈り払い	←————→	←————→	←————→	←————→	←-----→
	浸食防止	土砂除去	←————→				
		丸太横断排水工等					←-----→ (止水エース)
		植生モニタリング	←————→				←-----→
自然推移ゾーン	植生モニタリング	←————→				←-----→	

- 注) 1 植栽後における刈り払い等の保育作業は、現地の状況を踏まえて実施する。
 2 一部植付は枯死が生じ、植付（補植）が必要であると判断した場合に実施する。

【3】みどり環境交付金事業について

1. みどり環境交付金事業の審査結果について

昨年に引き続き実施する植え付けや刈り払い、植生のモニタリング調査など森林再生活動について、「みどり環境交付金事業」として山形県において審査され、計画のとおり承認された。

2. 事業個別計画

番号	1	区分	・基本配分枠		・特別配分枠	
事業項目	1森林・自然環境学習 2自然環境の保全活動 (3豊かな森づくり活動) 4森林自然の利活用					
事業名	土湯の森づくり推進事業					
事業の目的	(事業の目的・概要を記載) 最上川スキー場跡地において、広葉樹の植栽や植生モニタリング調査等を実施しながら森林再生していく中で、自然観察や森林環境学習等を実施し、森林の持つ重要性を学ぶ。(H20年度より継続)。					
事業内容	実施時期	実施場所	事業内容	目標参加人数	事業量	
	7月	戸沢村 大字古口	刈払い	40人	0.85ha	
	10月	地内	植生モニタリング	20人		
	10月		広葉樹補植	40人	植付区 150本 新植 70本	
	11月		キノココマ打ち と種子散布	40人		
関連する他事業の有無	(みどり環境交付金事業以外で当該事業と密接に関わっている事業を記載) 有 (事業名:) ・ (無)					
事業効果	(波及効果等を具体的に記載) 荒廃したスキー場跡地を森林に再生することで、周辺を含めた森林環境の保全と野生動植物の生息及び生育地の確保など、森林保全の大切さへの意識を高める。					
事業実施期間	平成23年 6月 1日 ~ 平成24年 3月31日まで					
事業費(千円)	591千円					
事業区分(事業経費)	数量	金額	積算基礎			
報償費	6人	千円 60	森林学習指導謝礼 @10,000×6人			
需用費	4回	100	敷砂刈 @25,000×4回			
	10m ³	100	チップ @10,000×10m ³			
	4回	20	環境学習資料 @5,000×4回			
	180人	36	資料 @200×180人			
役務費	180人	13	保険料 @80×160人			
使用料	一式	10	刈払機 @1,000×10台			
		2	チェーンソー @1,000×2台			
		250	バックホー @50,000×5回			
小計		591				

【4】参加募集について

参加者の募集方法は次のとおり。

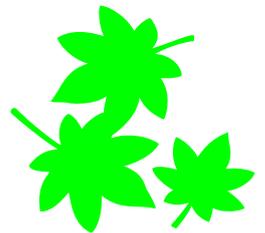
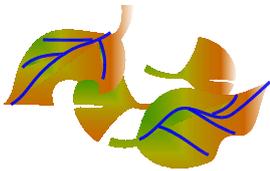
前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
<ul style="list-style-type: none">・ 学校への対応<ul style="list-style-type: none">① 事業前に個別に小・中学校等へ案内を配布した。 ・ その他<ul style="list-style-type: none">① 委員への案内。② 戸沢村ホームページ掲載。③ 戸沢村広報誌募集掲載④ ふれセンホームページへ掲載。等を活用した募集を実施。	<ul style="list-style-type: none">・ 個別に小・中学校への訪問を行い事業の趣旨を説明したい。 ・ 各種イベント開催時は報道機関等を積極的に活用したい。

リーフレット

(案)

平成23年度 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会 「土湯の森」づくり

～ 最上川スキー場跡地の森林再生と自然あそび ～



日程	プログラム	対象	参加費
7月下旬	刈り払いと「幻想の森」散策	中高生以上	無料
10月上旬	モニタリング調査	中高生以上	無料
10月下旬	ブナ等山取苗の植付	小中校生以上	無料
11月上旬	キノコのコマ打ちと種飛ばし体験	小中校生以上	無料

プログラムは、基本となる年間計画を記載したものです。
実施内容(森林環境教育)等については、ご要望を踏まえ企画させていただきます。
ご希望やご質問など事務局までお気軽にお問い合わせください。



事務局

戸沢村産業振興課

〒994-6404 戸沢村大字古口270

TEL: 0233-72-2111

FAX: 0233-72-2116

または

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404 鶴岡市下名川字落合3

TEL: 0235-58-1730

FAX: 0235-58-1731

(詳細内容のお問い合わせはこちらへ)

◎交通のご案内

JR新庄駅から車で55分(内林道10分)

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動をホームページでご案内しています。
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

東北森林管理局

ホーム > 森林管理局の案内 > 森林管理局の概観 > 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

朝日庄内森林環境保全 ふれあいセンター



2011 国際森林年

新白山地森林生態系保護地域



朝日自然塾

みどりの保育園

朝日庄内 いきもの図鑑

写真館

上池 下池



カシノ ナガキクイムシ



カウソウ マダコカミキリ

カウソウカイガラムシ

危険な生物

巣箱づくり

東北地方太平洋沖地震の被害を受けた方々に、心からのお見舞いを申し上げます。

がんばろう！東北

お知らせ

- 第5回鳥海朝日・朝霞寄集録の国原自然再生推進協議会を6月1日に開催します(123年5月27日) **NEW**
- 朝日自然塾2「カマキリ(全戦績)」開催で初夏の昆虫観察(参加費無料です)(PDF: 76KB)(123年5月9日) **NEW**
- 朝日自然塾「新緑の自布平フナ林で森と遊ぼう」は終了しました(123年5月23日) **NEW**
- 2011年は国際森林年です(122年1月4日)

ご案内

ふれあいセンター概要

広報紙「朝日庄内ふれあいの風」

資料室

鳥二写真館

リンク集

サイトマップ

主な活動地域と取組

- 朝日山地森林生態系保護地域
- 鳥海朝日・朝霞寄集録の国原
- 庄内海岸林
- 高城山自然体験林
- 朝日自然塾

新着情報

- 巣箱づくりと野鳥観察(PDF: 313KB)をupしました(123年5月6日) **NEW**
- しんちゃんのおの森整備(PDF: 350KB)をupしました(123年5月6日) **NEW**
- 資料室の生物種リスト(植物(PDF: 156KB)・脊椎動物(PDF: 237KB)・昆虫(PDF: 167KB))を更新しました(123年4月27日)
- 平成22年度年報(PDF: 611KB)をupしました(123年4月6日)
- 平成22年度「朝日自然塾」プログラム(PDF: 1,059KB)をupしました(123年4月1日)
- しんちゃんのおの森にフクロウ用巣箱設置(PDF: 258KB)をupしました(123年3月18日)
- 朝日自然塾6雪山トレッキング そして園伊集でマダコの見学(5)(PDF: 1,067KB)をupしました(平成23年3月10日)
- 山スキー技術講習会(PDF: 239KB)をupしました(平成23年3月10日)
- 公益の森づくり事業ボランティアリーダー研修(PDF: 203KB)をupしました(平成23年2月25日)
- 平成22年度クワマツシロボシウム(PDF: 218KB)をupしました(平成23年2月23日)
- 「みどりの保育園」に「木製ストラップづくり」掲載(PDF: 219KB)をupしました(123年2月17日)
- 朝日自然塾「雪山トレッキング・・・」参加費無料です(PDF: 2,690KB)(122年1月11日)
- 国産材モニター登録無しています(122年1月4日)



これまでの新着情報はこちら

朝日庄内いきもの図鑑 から



フクジュソウ



サンバ



ムササビ



サワガニ

ご意見・ご感想

このホームページに対するご意見・ご感想をお聞かせください。



お問い合わせ先

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
電話:0235-58-1730
FAX:0235-58-1731
〒997-0404 山形県鶴岡市下名川平産舎)

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。



